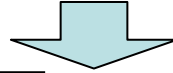


臨海部産業の国際競争力強化に向けて

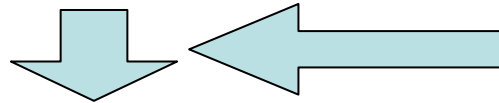
1. 日本の産業を取り巻く動向

- 世界規模の競争の激化
- 周辺諸国との分業
- 日本企業の海外進出と国内回帰
- 国内産業の高付加価値化の進展
- 企業を取り巻く環境のめまぐるしい変化
- 貿易額、輸出入貨物量の増加



2. 臨海部の目指すべき方向性

- ・ 日本の産業の国際競争力の強化
- ・ 基礎素材型産業(いわゆる重厚長大産業)の高付加価値化
- ・ 加工組立型業種を中心とした新規立地
- ・ 産業の経済効果を通じた地域の活性化
- ・ リサイクル物流の拠点



3. 臨海部の特性

- ・ 海運の利用が容易
- ・ 都市に近く背後の人口が多い
- ・ 都市に近く産官学の連携が容易
- ・ 既に産業が集積しており、これらのとの連携が可能
- ・ 高速道路等の整備が進んでいるが、港湾との接続が悪い場合がある
- ・ 臨海部造成地の地価が高い
- ・ リサイクル貨物の取扱規制がある

4. 支援の方向性

国際的な競争条件を整備

企業のニーズにきめ細かに対応

広域的な連携の推進

既存インフラを有効活用しつつ、企業活動の国際的な競争条件を満たすインフラを効率的かつ早期に整備

企業の多様化、高度化するニーズに行政側が迅速に対応

臨海部企業と関連企業、消費地、産官学の連携強化

5. 臨海部産業の国際競争力強化のための港湾政策

(次ページ)

「産業競争力強化ゾーン(仮称)」の形成 ～臨海工業地帯のリノベーションに向けて～

企業の物流効率化ニーズに的確に対応したインフラ整備

(1) 企業活動のスピードに対応した、インフラ整備のスピードアップ

投資の重点化、手続きの簡素化・迅速化、民間の提案・資金の活用等により、インフラ整備のスピードアップを図る

(2) 道路交通アクセスの向上

広域的な幹線道路との接続、港湾内の道路交通の円滑化等を図る。

(3) 世界標準の大型バルク貨物輸送船への対応

大水深の国際バルクターミナルの拠点整備、民間資金を活用したストックヤードや荷役機械の整備により、大型バルク貨物輸送船への対応を図る。

(4) 企業のニーズにあった港湾の整備・利用

オンタイム輸送のための港内静穏度の確保、老朽化する港湾施設への対応、民間資金を活用した荷さばき施設等の整備、循環資源の海上輸送の円滑化を図るための循環資源取扱基準の共通化、フェリー、RORO船等を活用した国内外輸送への対応により、企業ニーズにあった港湾の整備、利用を図る。

(5) 臨海部産業活性化に関する連絡調整、情報交換

港湾管理者、市町村、国、関連工場、学識経験者等が、臨海部産業の現状、課題、対応策等について連絡調整、情報交換を行い地域・民間のニーズをきめ細やかにくみ上げる。

臨海部造成地のリースの円滑化
工場の新規立地、増設に合わせた用地の確保、再編

臨海部用地情報の提供

大型バルク貨物輸送船への対応

港内静穏度の確保

循環資源の海上輸送円滑化

臨海部の土地の有効活用

(1) 臨海部の土地の利用形態の多様化への対応

企業の土地利用形態の多様化等を背景に増加している土地貸付等の多様化するニーズに対応し、臨海部の土地の有効活用を図る。

(2) 臨海部の有効活用・再編

官民の関係者による遊休地等に関する情報の交換による立地企業間の土地の交換、官民の協力等により、臨海部の再編、有効活用を促進する。また、就労環境の向上のための生活インフラ等の整備を支援し、臨海部空間の多面的な利用を図る。

(3) 臨海部土地情報の提供

臨海部の公有の分譲地、民有の低未利用地などの情報を集約し、企業等のニーズに応じた情報提供・検索等が可能な情報提供システムを整備する。

「産業競争力強化ゾーン(仮称)」のイメージ

IC

広域的な幹線道路との接続

工場の増設

分譲用地

工場の新規立地

港湾内の道路交通の円滑化